

工学院大学建築学系同窓会／建築を保存する会

白樺湖 夏の家

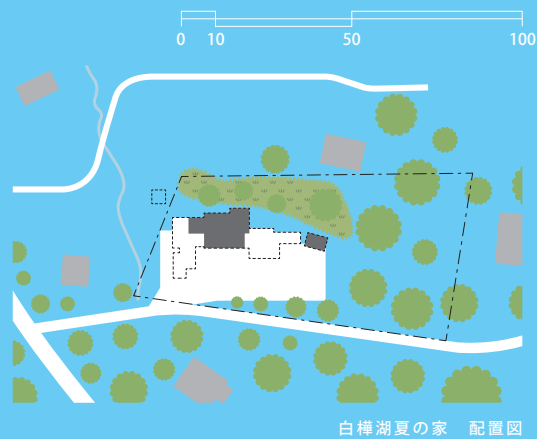
工学院大学旧白樺湖学寮 1968-2016

白樺湖 夏の家

工学院大学旧白樺湖学寮 1968-2016

写真＝齋藤さだむ 文＝鈴木敏彦

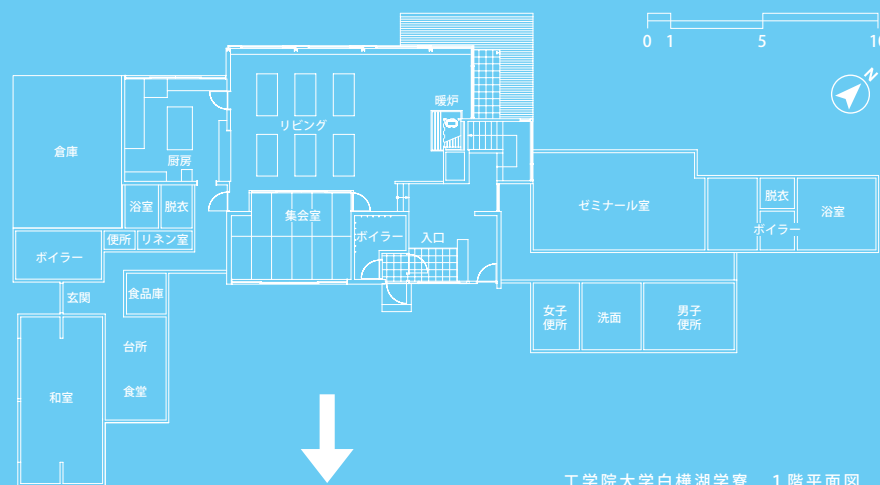
新宿から2時間余り特急に乗ると長野県茅野駅に着く。降りた途端に空気の美味しさに気がつく。ここから白樺湖行きのバスに乗って揺られること45分、「白樺湖夏の家」に到着する。学生の頃にスキーや釣りや研究室の合宿で宿泊したことのある工学院大学の卒業生も多いだろう。この白樺湖の拠点となった建物こそ、建築学科教授であった武藤章（1931-1985）が設計した学寮である。武藤先生は、1961年にフィンランドに留学し、巨匠アルヴァ・アールト（1898-1976）のアトリエで直接学んだ唯一の日本人建築家であった。帰国後に武藤先生が設計した「工学院大学八王子図書館」やこの白樺湖の学寮には北欧の建築の特色が色濃く現れている。トップライトからの光の取り入れ方や、木をふんだんに使った内装、皆を暖かく包み込む大きな暖炉は、今なお魅力的だ。しかし白樺湖全体の利用者低減にともない、大学はこの学寮を閉鎖した。とはいえ借地権はまだ20年残っている。契約を解除すれば建物を解体し、更地に戻すことになる。前述の図書館は新しいキャンパス計画にともない解体を余儀なくされた。今度こそ武藤先生の設計した珠玉の建築を残す方法はないものか。校友会と建築系同窓会は大学から土地の借地権と建物を引き継ぎ、一部減築の上、夏期限定の「夏の家」として保存・活用していくことを決意した。森に囲まれた白樺湖は、まるで日本におけるフィンランドである。「白樺湖夏の家」は、奇しくもフィンランド独立100周年にあたる2017年に始動する。



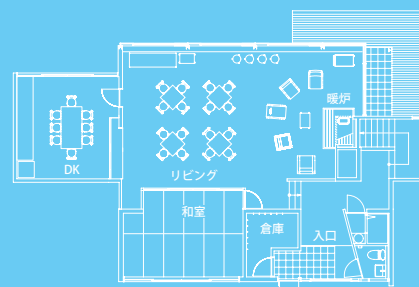
白樺湖夏の家 配置図



減築前の全景



工学院大学白樺湖学寮 1階平面図

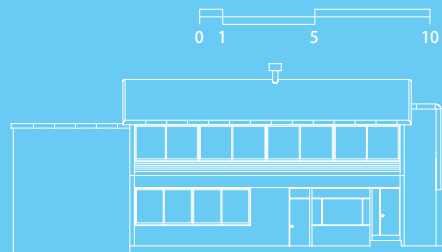


白樺湖夏の家 1階平面図（減築後）

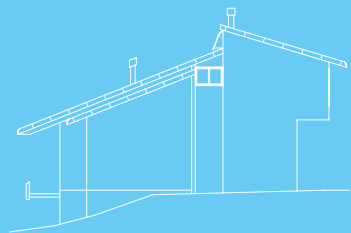
この新しい建物は従来の建物の北側に位置させることにし、リビングルームは北の白樺湖に面した斜面に浮き、それに対して4つの個室が南の小山に面した2階に並んでいる。そして個室の北側の通路はリビングルームに吹き抜けている。これはあくまでもリビングルームを中心として全体の空間がひとつに統一されるようにと考えてしたことである。

武藤章『工学院大学建築学科同窓会誌 Vol.2』（1969年）より

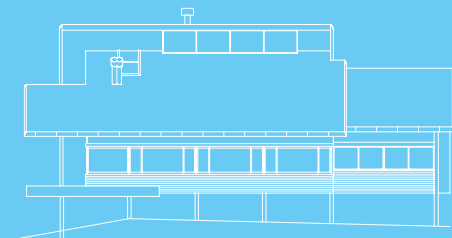




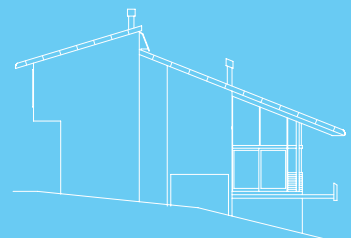
南立面図



西立面図



北立面図



東立面図

■建築データ

第1期工事設計：1968年工学院大学建築学科大学施設委員会／意匠 武藤章、南迫哲也／構造 十代田昭二助／設備 中島康孝）

第2期工事：1971年増築

第3期工事：1977年増築

第4期工事減築改修設計：2016年工学院大学建築学系同窓会／建築を保存する会

主要用途：別荘（学寮から用途変更）

減築改修工事施工：株式会社ヤマウラ（第1期工事施工 白石建設）

規模：敷地面積 約2,640㎡／建築面積 164.20㎡／

延床面積 204.05㎡／1階 135.06㎡／2階 68.99㎡

工程：改修設計期間 2016年4月～6月／改修施工期間 2016年7月～10月（1期工事竣工 1968年11月）

構造：鉄筋コンクリート造、一部鉄骨造、木造

設備：給湯 小型電気温水器／暖房 暖炉

主な外部仕上げ：RC 打放し／鉄骨部 リプラス

下地モルタル木ゴテ仕上VP／木造部 欧州松本実板

下見板張り、煮亜麻仁油塗り／軒天井 白ラワンベ

ニヤOS／屋根 亜鉛鉄板平葺OP 鼻隠 鉄板OP／

テラス 鉄骨製、床一部スキ入りモルタル目地切

主な内部仕上げ：リビングルーム／床 ブナフ

ローリングCL／壁 コンクリート打放リプラスモ

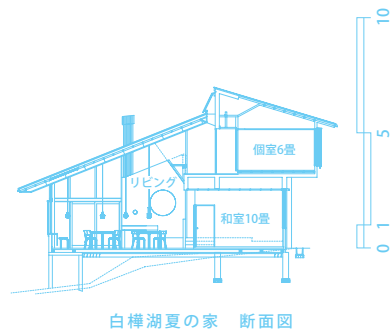
ルタル木ゴテVP、一部白ラワンベニヤ／天井 白

ラワンベニヤOS 梁下 漆喰



リビング

Living room



白樺湖夏の家 断面図

「白樺湖夏の家」ではリビングの2層吹き抜けの空間を介して、キッチン、1階の和室、2階の廊下、2階の和室、暖炉、トイレ、シャワー室が立体的に繋がっており、天井のトップライトから自然光が降り注ぐ。2階の手すりに備えつけられたソファーに座りながら1階を見下ろすと、傾斜したラワンベニアの天井が大きな硝子の開口部を貫通して底となり、その先に白樺の木々が広がるの見える。1階のリビングの主役は大きくて品格のある暖炉だ。アルヴァ・アールトが1958年にパリ郊外に設計したルイ・

カレ邸の暖炉を彷彿とさせる。暖炉に火を灯すと暖かさと共に空間全体が生き生きとするのを肌で感じることができる。リビングの家具と照明には、アルヴァと妻のアイノがデザインしたアルテックの製品を選定した。暖炉の廻りにはイージーチェアを配し、4人掛けの各テーブルにはペンダントライトを机上面から60cmの位置に設置した。飴色にエイジングしたブナのフローリングに合わせて、1950年代から70年代のヴィンテージモデルの椅子とテーブルを選定した。

リビングからダイニングキッチンを望む。2階の手すりの裏が造り付けのソファーになっている。



ダイニング キッチン

Dining Kitchen

かつて寮母が食事を提供してきた厨房は、プロ用シンクだけを残し、宿泊者が自ら料理と食事を楽しむダイニングキッチンに改造した。キッチンのリビングの両側から開閉できる食器棚は武藤先生の設計だ。食器類はアイノ・アールトとカイ・フランクのデザインを揃えた。テーブルの机上60cmにはアールトがヘルシンキのレストラン・サヴォイのためにデザインした照明「ゴールデンベル」を下げた。

食器はカイ・フランクのティーマ。グラスはアイノ・アールトのタンブラー。カトラリーはカイ・フランクのオリジナルのスカンディア。



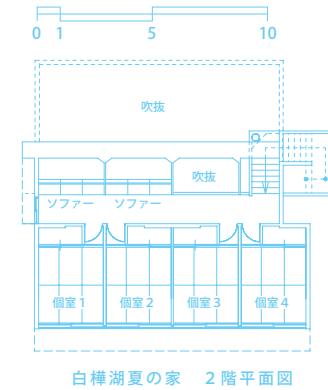
ダイニングキッチン

リビング側からも使える食器棚は、武藤先生のオリジナルデザイン



和室

Guest room



白樺湖夏の家 2階平面図



1階の和室11.5畳は集会室としても使用できる



2階の和室6畳

1階には定員8人の11.5畳の和室、2階には定員4人の6畳の和室が4室あり、合計24名が宿泊可能である。1階の和室は間口一杯に開口部がとってある。畳とリビングのフローリングには段差がない。2階の和室の建具には襖、木製ガラス戸、障子がある。宿泊者はこれらの和室に各自で寝袋を持ち込んで就寝する。

トイレ シャワー

bathroom

最新のトイレを設置した。また入浴には付近の公共温泉施設の利用を想定し、一人用のシャワーユニットを設置した。



シャワー室 TOTOシャワーユニット、Xタイプ



洋便器 TOTO ビュアレスト、ウォシュレットタイプSB

家具、照明 テーブル エア

Interior fixtures

旧学寮で使用した既成家具を一新し、インテリアの家具調度品には徹底してフィンランドのデザインを選定した。「白樺湖夏の家」はフィンランドの暮らしとデザインを体験し学ぶ場となる。家具と照明は、アルテックが1950~70年代に製作したアールト夫妻デザインのヴィンテージ家具で統一した。椅子やテーブルの脚のL型に曲がった曲げ技法こそアールトの家具の特徴である。この部分を詳細に見ると製作年代ごとのデザインの変遷を比較できる。選定にあたっては北欧家具を専門に扱う「talo」の山口太郎氏の協力を得て、希少なアイテムを揃えた。イッタラのガラスは1932年にアイノ・アールトがデザインしたもので、ガラスの同心円の模様が機能と美しさを兼ね備えている。白磁の食器「ティーマ」とカトラリーの「スカンディア」は同じくイッタラから同年代に活躍したカイ・フランクのデザインを揃えた。シンプルでモダンなデザインは、どんな料理も美しく見せてくれる。こうして、「白樺湖夏の家」は北欧デザインを体験する宿泊施設でありながら、アールトの家具を動態保存するミュージアムとなる。もちろんカーテンのシエナもアルヴァのデザインだ。フィンランドは日本から飛行機で10時間半の距離にある。森と湖の豊かな国に、白樺湖から思いを馳せてみるのはどうだろう。アールトに薫陶を受けた武藤先生の建築以上に、フィンランドのデザインを味わうのにふさわしい器はないのではないかな。



テーブル83 2000年モデル
W/D/H/ : 1822/911/714



チェアー611 60's
W/D/H/SH : 450/490/790/450



アームチェアー401 70's
W/D/H/SH : 620/620/1020/210



ブックシェルフ 60's
W/D/H : 900/251/248



Teema white plate flat 26cm
φ /H : 260/33



テーブル 76cm角正方形 50's
W/D/H/ : 838/760/709



チェアー69 70's
W/D/H/SH : 435/460/730/435



スツール60 60's
W/D/H/SH : 347/374/439/439



A440 PENDANT LIGHT
φ /H : 190/230



Teema white bowl 15cm
φ /H : 150/55



テーブル 76cm角正方形 50's
W/D/H/ : 760/760/710



チェアー69 60's
W/D/H/SH : 440/474/758/433



ベンチ S P 60's
W/D/H/SH : 1800/600/442/442



A110 PENDANT LIGHT
φ /H : 160/440



Teema white cup&saucer
カップ φ /W/H : 82/106/61
ソーサー φ /H : 143/24



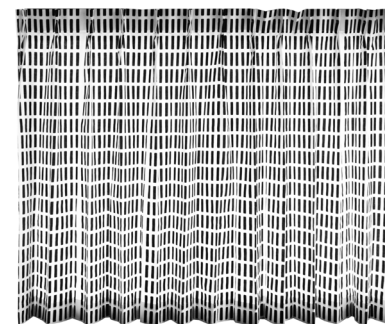
チェアー69 50's
W/D/H/SH : 430/460/725/390



チェアー69 60's
W/D/H/SH : 440/474/758/433



サイドテーブル 70's
W/D/H : 573/420/511



SIENA



Teema white tea pot 1L
W/D/H : 210/130/155



チェアー69 60's
W/D/H/SH : 440/474/758/433



アームチェアー401 70's
W/D/H/SH : 620/620/1020/210



コートラック 50's
W/D/H : 1200/300/275



Scandia
フォーク W/H : 25/200
スプーン W/H : 45/195
ナイフ W/H : 20/210



Aino Aalto tumbler
φ /H : 75/90



暖炉の前にある白と黒の毛足の長いラグと牛の毛皮の敷物は、武藤邸（白鷺の家、1974年）で使われていたもので、ご家族からの寄贈品。

交通アクセス

鉄道利用

（鉄道運賃3,260円+特急指定席2,610円+バス料金1,000円）
新宿駅（JR中央線特急約2時間20分）→茅野駅（白樺湖行きバス約45分）→バス停「グランド前」（徒歩6分）→白樺湖夏の家

車利用

東京（新宿）→中央自動車道（180km）→諏訪IC→芹ヶ沢（12km）→国道152号→白樺湖（10km）→バス停「グランド前」から坂道を上った左手→白樺湖夏の家
東京（練馬）→関越・上信越自動車道（170km）→佐久IC→白樺湖（40km）→バス停「グランド前」から坂道を上った左手→白樺湖夏の家

白樺湖夏の家 周辺地図



白樺湖 夏の家 工学院大学旧白樺湖学寮

■基本情報

施設名：白樺湖夏の家／工学院大学旧白樺湖学寮
所在地：長野県茅野市北山29
主要用途：フィンランドの巨匠アルヴァ・アールトに学んだ唯一の日本人建築家で工学院大学教授であった故武藤章先生（1931-1985）が設計した建築の動体保存を目的に、主に北欧の建築とデザインに関する講演会やワークショップ等に活用する。「白樺湖夏の家」を拠点に、北欧の暮らしに学ぶ環境づくりを啓発し、白樺湖の活性化に貢献したい。

「建築を保存する会」

本建築を保存する活動を支援し、維持管理に協力する校友の会。入会時寄付金 300,000円、維持協力金 12,000円／年。現在の会員数は20名。入会金は改修工事費等の原資となった。会員には「白樺湖夏の家」の鍵が与えられ、まるで自分の別荘のように利用することができる。会員は広く校友と教職員から募集する。会員の同伴を条件に、だれでもいつでも夏の家を利用することができる。教員が入会し研究室のゼミ活動等で有効活用することを期待している。利用スケジュールは「建築を保存する会」が管理する。
会員募集中！

「建築の保存を支援する企業の会」

本建築を保存する活動を支援し、維持管理に協力する企業の会。入会時寄付金 500,000円、維持協力費 120,000円／年。建築の保存をサポートする企業として建築系同窓会が表彰する。企業会員は本建築を企業研修、企業主催のイベントに利用できる。本学学生を対象とするイベントについては、建築系同窓会が全面的に支援する。
企業会員募集中！

施設内容：1階 リビング、暖炉、ダイニングキッチン、和室11.5畳、トイレ、シャワー室。2階 和室6畳（4室）
設備：IHヒーター、冷蔵庫、電子レンジ、バーベキューコンロ、調理器具一式、小型電気温水器、シャワーユニット、ウォシュレット付トイレ
宿泊定員：24名
家具調度：アルヴァ・アールト、アイノ・アールトがデザインしたヴィンテージ家具、照明器具、アイノ・アールトデザインのグラス、カイ・フランクのテーブルウェア他
公開日：2017年より5月～10月の6ヶ月間
周辺施設：白樺湖温泉すずらの湯（割引有り）

■学寮から夏の家へ

2016年 3月 工学院大学白樺湖学寮が閉鎖され、解体の危機を迎えた。この珠玉の建築を保存するため、校友会と建築系同窓会が土地の借地権と建物を引き継ぐことを決意。「建築を保存する会」の発起人会を立ち上げ、寄付を募った。
2016年 7月 改修工事開始。1977年の第3期工事まで増築した建物を1968年の第1期工事の状態まで減築。夏期利用に限定し、石油暖房設備を撤去。浴室と便所も撤去し、シャワー室とウォシュレット付トイレを新設。厨房をダイニングキッチンに改造。消防上使用できなかった暖炉を復活。アルヴァ・アールトのヴィンテージ家具と照明でインテリアを一新。外部補修および内部家具と設備新設にかかる費用は発起人会20名（校友会、建築同窓会有志）の寄付を原資とした。
2016年 9月 工事完了。完了検査の後、「建築を保存する会」の第1回発起人会を9月24日に開催。
2017年 5月 本格的に「白樺湖夏の家」として始動する。武藤章の建築の動体保存を目的に、北欧建築・デザインに関する講演会やワークショップ等のイベントを中心に活用していく。2017年はフィンランド独立100周年にあたる。10月、武藤章先生の三十三回忌を「白樺湖夏の家」にて行う。

■『建築を保存する本02 工学院大学白樺湖学寮 1968-2016／武藤章』出版へ

2015年10月、武藤先生が設計した代表作品の一つである「工学院大学八王子図書館」が解体された。建築学部同窓会では保存を強く訴えたが様々な理由によって力が及ばなかった。解体を阻止できない現実を直視し、改めて建築の記録と保存の方法を模索する中で、書籍『建築を保存する本01工学院大学八王子図書館／武藤章 1979年12月竣工～2015年10月解体』の発行に至った。今回、同じく武藤先生が設計した白樺湖学寮においては、建物を減築して維持管理費を抑え、同窓会が建物を引き継ぐことで解体を回避することができた。建物を使いながら保存するという試みを『建築を保存する本02』にまとめ、広く社会にアピールしていきたい。2017年12月発行予定。

■2017年スケジュール

- 5月** 別荘開きの集い（水出し）
- 6月** 北欧の夏至祭（1年で最も昼間の時間が長い日を祝福するイベント）
- 7月** 北欧建築・デザインの集い1（フィンランド独立100周年記念講演会1）
- 9月** 北欧建築・デザインの集い2（フィンランド独立100周年記念講演会2）
- 10月** 故武藤章先生三十三回忌
水抜き集い

*詳細は、建築学部同窓会HP参照
<http://niche-alumni.com/>

写真 齊藤さだむ（齊藤さだむ写真事務所）
文 鈴木敏彦（工学院大学建築学部教授、建築学系同窓会会長、北欧・建築デザイン協会理事）
家具実測 工学院大学建築学部鈴木敏彦研究室



個室で隔てられた生活でなく、共存の生活の方が大学山の家の生活にふさわしいと判断される。それならば、要求通りに個室を増殖するよりも、住宅でいえばリビングルームにあたるリビングスペースをこの際つくるのが先決であるという結論に達した。

武藤章『工学院大学建築学科同窓会誌 Vol.2』（1969 年）より

アルヴァ・アールトと武藤章



武藤章（むとうあきら）

1931 年東京都生まれ。1954 年東京大学卒業。1956 年工学院大学助手。1960 - 61 年アトリエ・アルヴァ・アールトへ留学。1961 - 62 年イタリアのジノ・ヴァッレ設計事務所勤務。1964 年工学院大学助教授。1967 年事務所設立。1974 年工学院大学教授となる。1985 年 10 月 12 日逝去。